

式 辞

春の息吹を感じる今日の佳き日に、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、第一二四回卒業証書授与式を挙行できますことを心より御礼申し上げます。

さて、卒業生六十名のみなさん、卒業おめでとう。今、皆さん一人一人の小学校卒業の時の夢や思いを込めた言葉を聞き、小学校での学習をしっかり行ったことを確認しました。その証として卒業証書を手渡しました。六年生としての一年間は、この証書を受け取る自分づくりの一年だったと思います。

コロナによる制限が緩和される中、二年ぶりに行われる様々なこと、全校での運動会、一泊二日の修学旅行、市内陸上大会に音楽発表会と、本来ならば先輩の姿を手本としながら最高学年として取り組むところ、すべてが君たちにとっては前例のない中での活動でした。それにも関わらず、どの活動においても成果を出してきた君たちは、あふれるパワーの持ち主だったということだと感じます。

その力を最大限に発揮し、土っ子の新しいスタイルを創り出したのは、「土地域スマイルアップ大作戦」です。五月六日の土サミットから二月十日の土サミットまでの九か月の間、一つのテーマを徹底的に追究したことは、これからの生活の中できっと役立つことと信じています。本日、ご来賓としてお招きした地域の方から、土地域の

魅力を教えていただき、その魅力を自分たちの言葉で広めよう、伝えよう、としたのがスマイルアップ大作戦でした。九か月の間、何度も「あーできた、終わった」という時がありましたね。でも、そのたびに先生から、「どういう意味なの?」「なんで」と問い返され、さらに調べてみる、現地に足を運んでみる、地域の方々にインタビューをしてみる、ということを繰り返し繰り返し行った結果が、二月十日の土サミットでの発表でしたね。今、ふり返ってみてどうですか。もっとやりたいということがまだまだ残っているのではないのでしょうか。六年生の先生方が君たちに求めたのは、この一つのことをやり抜く姿勢だったと思います。

中学校二年の国語の教科書に大岡まことさんの「言葉の力」という文章があります。一部を読みますね。聞いてください。

『京都の嵯峨に住む染物をする志村ふくみさんの仕事場で話していたおり、志村さんがなんとも美しい桜色に染まった糸で織った着物を見せてくれた。そのピンクは、淡いようでいて、しかも燃えるような強さを内に秘め、華やかでしかも深く落ち着いている色だった。その美しさは目と心を吸い込むように感じられた。「この色は何から取り出したんですか。」「桜からです。」

と志村さんは答えた。素人の気安さで、私はすぐに桜の花びらを煮詰めて色を取り出したものだろうと思った。実際はこれは桜の皮か

ら取り出した色なのだった。あの黒っぽいごつごつした桜の皮からこの美しいピンクの色が取れるのだという。志村さんは続けてこう教えてくれた。この桜色は、一年中どの季節でもとれるわけではない。桜の花が咲く直前のころ、山の桜の皮をもらってきて染めると、こんな、上気したような、えもいわれぬ色を取り出せるのだ、と、花びらのピンクは、幹のピンクであり、樹皮のピンクであり、樹液のピンクであった。桜は全身で春のピンクに色づいて、花びらはいわばそれらのピンクが、ほんの先端だけ姿を出したものにすぎなかった。

考えてみればこれはまさにそのとおりで、木全体の一刻も休むことない活動の精髓が、春という時期に桜の花びらという一つの現象になるにすぎないのだった。しかし我々の限られた視野の中では、桜の花びらに現れ出たピンクしか見えない。たまたま志村さんのような人がそれを樹木全身の色として見せてくれると、はっと驚くのです。』

この桜の営みは、君たちの今年と同じことではないかと思います。土サミットに向けて、土地域の魅力をなんとかわかってもらいたい、なんとかしてわかりやすく伝えたい、と考えぬいて行動したことが、発表という花びらとして咲いただけでなく、桜の花が咲くときに桜の枝や幹までが桜色になるように、君たちの中に目標に向けてや

り抜くという見えない力となって蓄えられたのです。

君たちが大人になって活躍する社会は、誰かの言う通りに行動して通用する社会ではありません。どうすれば社会のために、人のためになるかを考え、自分を信じて、仲間と協力して行動することが求められます。

君たちの母校、土小学校のシンボルは百年桜です。あの百年桜も毎年毎年春の満開に向けて、木全体で花びらのあの美しいピンク色を創り出しているのです。君たちも百年桜と同じように、毎年毎年自分のテーマを持ち、行動し、失敗したり成功したりする体験を通して、少しずつ自分なりの判断基準や価値観を作って、先ほど宣言した夢をつかみ取って欲しいと願います。これは終わりの無い自分自身への挑戦です。今日からやり続けることにより、目先の利益に左右されることのない大人に成長できるはずです。期待しています。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。お子様は人生において最も多感な時期に入ります。子供たちが自分で判断して歩む姿を信じて、少し遠くから温かく見守ってください。そしていつまでも「子供があこがれる大人」でいて頂きたいと願います。そんな皆様の姿が子供たちを支えます。これまで本校にお寄せいただいたご理解とご協力に改めまして感謝を申し上げます。ありがとうございました。

そして、今年度土小はコミュニティ・スクールとなり、地域の皆様と協働した教育活動を行ってまいりました。高いところから恐縮でございますが、ご来賓の皆様には、子供たちの学びを支えていただきましたことに感謝を申し上げ、さらに今後も本校の子供たちへの変わらぬご支援ご指導をお願い申し上げます。

さあ、卒業生のみなさん、羽ばたきの時です。大きな空の、自分が目指す方向に向けて、大きく羽ばたき飛んでいく君たちを、土小学校の先生たちは、いつまでもいつまでも応援しています。自信を持って未来の社会を創る大人になってください。

令和五年三月十七日

柏市立土小学校 校長 梅津健志